

NITTO NITTOSEIKO NEWSLETTER

日東精工ニュースレター

京都府綾部市井倉町梅ヶ畑20
日東精工株式会社経営企画室発行

新中期経営計画

「NITTOSEIKO Mission “G”」

顧客、市場のニーズにグループの総合力でより高く応える ～Group's Global Growth～

日東精工では、昨年、中期経営計画「日東パワーアッププランFINAL」最終年度の目標達成に向け、国内外でM&Aを進め「事業領域の拡充」に積極的に取り組むとともに、新たな需要拡大が見込まれる自動車市場に注力した設備投資や展示会への出展・提案型販売活動など、当社の持続的成長に向けた施策を展開しました。また新製品を投入、新しいマーケットづくりや製品領域の拡大にも努めてまいりました。

2019年、今年度から新しい中期経営計画「NITTO SEIKO Mission “G”」の4年間がスタートします。この中期経営計画は10年間の長期経営計画のファーストステージの4年間であり、10年後のグループビジョンである、「世界中で認められ、求められる『モノづくりソリューショングループ』」を目指すための大切な第一ステップとなるものです。「NITTOSEIKO Mission “G”」の戦略テーマを抜粋してご紹介します。



長期経営 ビジョン

世界中で認められ、求められる 「モノづくりソリューショングループ」を目指す

2019年から22年をFirstステージ、23年から25年をSecondステージ、そして26年から28年をFinalステージとし、Firstステージの中期経営計画を「NITTOSEIKO Mission “G”」と名づけました。「顧客、市場のニーズにグループの総合力でより高く応える～Group's Global Growth～」を中期経営ビジョンに、「Taking new steps forward together」とともに新しい一歩を」をブランドスローガンにして邁進してまいります。

第9回クルマの軽量化技術展に出展



「AKROSE」「カラーレスタイト」など 新しい技術、新しい製品をアピールしました

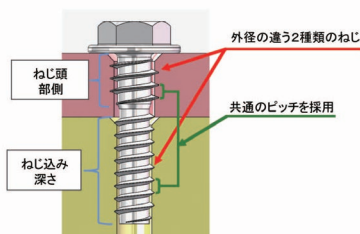
1月16日(水) から18日(金) まで東京ビッグサイトで「第9回クルマの軽量化技術展」が開催され、日東精工も出展いたしました。本展示会は「オートモティブ ワールド2019」の一環として「カーエレクトロニクス技術展」「自動車部品 & 加工EXPO」「自動運転EXPO」などと同時開催されたもので、全世界30か国1120社が出展、世界中から自動車技術者など4万3000人以上が来場したものです。

弊社日東精工は自動車関連業界を主力分野としており、今回もファスナー事業、産機事業、制御システム事業の3つの事業部が連携して、締結のトータルソリューションを強くアピールいたしました。これまでの展示会同様に、軽量化素材の特性に合わせた各種セルフタッピングねじをはじめ、「位置補正カメラ搭載ねじ締めロボット」、検査選別装置「MISTOL」や新型振動検査装置「KizMIL II」などを展示し、来場者の方（お客様）に実際に見て触れて弊社の優れた技術を実感いただきました。

また昨年12月の「第2回接着・接合展」で初お披露目した「AKROSE（アクローズ）」（冷間圧造技術を活かした新発想の異種金属接合）や新製品の「カラーレスタイト」（樹脂材締結における鉄カラーとインサートナットを廃止可能とするねじ=P3ご参照）などもわかりやすくプレゼンテーション。たくさんの方々にご興味をもっていただき、高い評価もいただきました。



自動車メーカーからの要望に応える形で開発した「カラーレスタイト」。新製品リリース（1月10日）後に初出展しました。



異種金属接合「AKROSE」（アクローズ）は当社ファスナーの冷間圧造技術をベースに開発したこれまでになかったまったく新しい技術です。低コスト、省エネ、軽減化に貢献。環境・安全面でもメリット大。

日東精工グループの ロゴマークが変わります！

P1でご紹介したように本年2019年度から新しい中期経営計画がスタートしますが、さらに飛躍を目指し、日東精工の題字、ロゴマークも新しいものに変わります。日東精工グループ共通ブランドロゴマークとして連結子会社を含む計22社が4月1日より共通で使用していきます。

NITTOSEIKO

当社理念など80年間で培ったよき伝統は継続する意味で、従来からのローマ字NITTOSEIKOの書体をベースに、スタイリッシュにデザイン変更することで、今後の当社の変化・発展への意欲、仕事に対するセンスとスピード感を打ち出しました。加えて、NITTOSEIKOの文字をつないで連続的なデザインとすることにより、これまで、そしてこれからの会社の持続性と従業員の一体感を表しています。また、左側の「i」と右側の「i」を形状的に人ととらえ、「愛」をつなぎ、当社とお客様、取引先、グループ会社、ステークホルダーなど、当社にかかわるすべての人を絆でつなぐ意味も込めています。

樹脂材締結の可能性を広げる「カラーレスタイト」を新発売

樹脂材へのねじ締結は熱で変形しにくいカラーと呼ばれる鉄製の筒と、金属製のインサートナットを埋め込みことが一般的な組付け方法ですが、これは部品点数増や工程数増で、コストアップにつながり、軽量化に反するものです。当社では、鉄カラーとインサートナットを廃止することができる樹脂用セルフタッピンねじ「カラーレスタイト」の開発に成功、2月1日に新発売しました。樹脂材締結の可能性を広げる基幹製品として、お客様のモノづくりを強力にサポートしてまいります。



■製品概要

カラーレスタイトは、従来のねじと違い、同軸上に呼び径の異なる2種類のねじ山（ピッチは共通）を有し、被締結材と相手材にそれぞれのねじ部でセルフタッブを行います。この作用により、軸力低下ならびにクリープが発生した時の被締結材のガタつきやゆれみを防止します。結果、鉄カラーやインサートナットを使用して行っていたクリープ対策が不要になり、コストや工数の削減、締結構造体の軽量化を実現します。

NXドライバSD600Tシリーズ「NX500T3」を新発売

産機事業部では高トルク域のニーズを受けて、新たにドライバNX500T3をラインアップに加え、1月25日より販売を開始しました。当社のトルクセンサ内蔵NXドライバシリーズは発売以降、自動車業界を中心に締付け精度が要求される重要保安部品の締結に採用されてきました。今般、自動車の駆動系部品に多用されるM8クラスのボルト締結のトルク帯に適したドライバツールユニットNX500T3を開発。SD600Tシリーズに本機種をラインアップに加えたことで、ドライバツールユニットの仕様は計5種となり、低トルク帯から最大45N・mの高トルク帯まで幅広い用途で使用いただくことができます。



NX500T3-0AS* -20
コントローラSD600T10-2020-*

「親子を通じた企業ブランディング研究会」で、弊社若手社員が講師を務めました。

1月17日(木)京都商工会議所にて日本能率協会主催の「親子を通じた企業ブランディング研究会」が開催され、弊社経営企画室の稲葉紘平が講師を務めました。昨年大阪で「夏休み2018宿題・自由研究大作戦！」が開催され好評だったことを受け、今年は京都開催など幅広い展開が予定されていますが、昨年の参加成功事例を紹介させていただいたものです。同じ課題をもつ各社ご担当と交流もでき、最新の情報を得ることもできました。

事例報告をする稲葉紘平（上）。下は昨夏の「夏休み2018宿題・自由研究大作戦！」でねじの大切さを伝える模様。



タイの奇跡の救出劇を指揮したスティサック博士が来社

日東精工は地盤調査機「ジオカルテ」の海外展開を加速させており、軟弱地盤の多いタイへの導入を視野に入れ、タイ国立カセサート大学のスティサック博士と地盤液状化についての共同研究を進めるなど産学連携を背景に関係性を深めています。

昨年タイのタムルアン洞窟で遭難したサッカー少年たちの救出劇は世界中の人々に感動を与えましたが、その救出作戦の実質的な指揮をとったのが、タイ王立地盤工学会会長でもあるスティサック博士です。昨冬、シンポジウムのために来日されたおり、弊社にもお立ち寄りいただき親交を深めることができました。



代表取締役社長材木正己（左）とスティサック博士。



演じながら観客たれ！「我見」と「離見」を一致させる



『モノの魔力』（前田裕二 著 幻冬舎刊）という本

があります。ベストセラーになっ
ていっているのでお読みになっ
た方もいらっしゃるでしょう。

本をご紹介するコーナーでは
ありませんので多くは語り
ませんが、「メモを第2の脳
として活用する」「記録でな
く『知的生産』のためにメモ
をとる」「メモで『創造の機
会損失』を減らす」「メモの
本質は『ノウハウ』でなく生
き方である」……メモに関し
てなるほどと目からウロコが
落ちる見出しが多いので、興
味のある方は一読ください。
実際、身近な人間を観察し
ていると、伸びる人、優秀な
人にはメモ魔が多いようで、
アインシュタイン、エジソン、
ナイチンゲールなどもメモ魔
だったそうです。手前味噌で
すが、私自身、こうして責任
ある役職につけたのもメモ魔
だったからかもしれません。
これまでのメモ帳やノートは
大切な宝になっています。

さて、この『モノの魔力』
で能を大成させた世阿弥の
「離見（りけん）の見」が紹介
されていました。

能楽書「花鏡」で世阿弥が
紹介する言葉に「我見（がけん）
と「離見」があります。
芸事で良い演者と悪い演者を
分けるものは「目」である。
悪い演者というのは自分自身
（我）が見つめる目、すなわ
ち「我見」しかもち合わせて
いない。その一方で上手な演
者は、自分の体を離れたところ
から客観視することができ
る「離見」の目をもっている
というのです。

いわば幽体離脱をして、あ
らゆる方向から自身の演技を
見る目、つまり観客としての
目も大切だということです。こ
の離見の目、つまり「離見の
見」をもち、自分側の「我
見」で終わらせず「離見」と
一致させていくことが、芸に
秀でるのに重要であると世阿
弥は言っているわけです。

私どもは事業において「お
客様満足度120%」を目指
しておりますが、そのために
も「離見の見」をしつかりも
たなければいけないと自戒い
たします。

いい演技をしようとする
力が入って自分本位になりが
ちだといえます。これは技術
などにも当てはまることで
すね。良いと思うほどそれを強
くアピールしたいものでしょ
う。製品や技術に自信と誇り
があるがゆえに「我見」が勝

ち過ぎてしまう可能性もある
でしょう。ひとりよがりにな
らないよう、「観客の目」を
忘れないようにしていきたい
ものです。

いい映画やお芝居などを観
ていると登場人物などに感情
移入し、その世界についてい
引きずり込まれることがあり
ます。私どもも、お客様が思
わぬうちに、いつい身乗
り出してしまいたくなるよう
なモノづくりに励んでまいり
たいと思います。

連載⑬

あやべ ちょっと寄り道

綾部市民から愛される マスコットキャラ 「まゆピー」

綾部市のマスコットキャラクターは「まゆピー」です。
「ゆるキャラ」ブームが起こる以前、平成2年市制施行
40周年を記念して生まれたものです。「ゆるキャラのグ
ランプリをとって有名に」などという山っ気、商売っ気
はなく、一部の人が盛り上がるのではなく、市民みんな
大切にしています。写真は「まゆピーぬいぐるみの着せ
替えコンテスト」。市のホームページから型紙がダウン
ロードでき誰もが応募
できるものです。昨年
は市民投票で綾部太鼓
を叩いているまゆピー
（石原信明さんの作品）
がNo.1になりました。
まゆピーには市役所口
ピー他で出会えます。



まゆピーは養蚕の街の繭（まゆ）と平和・ピ
ースのピーを併せて命名されたものです。
LINEスタンプなどもあります。©綾部市